

さざんか

第54号、2005年11月

目にははっきりとは見えないのだけれども、虫の声を聞いたりするとあいつの間にかもうそこに秋が来ていたのだなあと感じた、ということを感じた歌がありました。今年は何かいきなりドーンと寒さがやってきて、秋の風情を楽しむヒマがなかったような気もしますが、みなさまはいかがお感じだったのでしょうか。一旦、冷え込んだ後は、意外と暖かい日が続くやはり地球温暖化の影響なのかなあなどと思ったりします。でも、もうすぐ今年も終わろうとしていることは確かなことなのでしょう。ご迷惑をおかけした脳外科医師不在の状態も解消されました。とにかくいろんなことがあった今年だったような気がします。最後の締めくくり(?)として日本医療機能評価機構の再受審があります。鹿児島県内の公立病院として初めて認定されてからもう5年が経とうとしている事にも驚きますし、その間、多くの改善はあったものの理想的な病院作りにはいまだ道険しく、自らの努力の足りなさを実感しているところです。当院の理念の三つの言葉の一つに「前進」という言葉があります。より良い医療を求めて常に「前進」していきたいものです。

さて、来年からはどうやら医療費の負担増があり、また同時に診療報酬の引き下げも行なわれそうな心配です。患者さんの負担は増え、病院の収入は減る、というなんとも両者にとって厳しい冬の時代の到来ですが、こう言う時代こそ本当に選ばれる病院として存在感が問われているのだと思います。地域の基幹病院としてこの地域に住む人達の健康と命を守るにふさわしい病院への新たな出発が今回の機能評価の再受審とも言えそうです。

年末年始、何かと慌ただしい日々が続きます。インフルエンザの予防注射はお済みでしょうか。終り良ければすべて良し。今年を良い年にするためにも元気で残りを乗りきっていきましょう！

北薩病院の基本方針

- 1 「患者さんの満足、ご家族の安心を提供します」(医療の姿勢)
 - 2 「急性期医療の実践と、より高い専門医療を追求します」(診療の特徴)
 - 3 「地域の救急医療体制に、積極的に貢献します」(診療の特徴)
 - 4 「地域の医療・福祉との連携を強め、支援します」(地域の支援)
 - 5 「仕事を通して、喜びと生き甲斐を追求します」(医療人としての姿勢)
-

患者さんの権利と義務

患者さんの権利

- 1 患者さんは、常に人間としての尊厳を尊重された医療を受ける権利があります。
- 2 患者さんは、平等かつ公平に、必要な医療を受ける権利があります。
- 3 患者さんは、最善の医療を受ける権利があります。
- 4 患者さんは、治療、看護の内容および病状経過について、説明を受ける権利があります。
- 5 患者さんは、十分な説明と情報を受け、納得の上自分の意志で医療を選ぶ権利があります。
- 6 患者さんは、医療上および個人的な秘密を守られる権利があります。

患者さんの義務

- 1 患者さんは、お互いの入院生活を守るために、定められた諸規則を守る義務があります。
- 2 患者さんは、他の患者さんの医療を妨害しない義務があります。

理念

慈愛・協調・前進

運、不運 宮園辰夫

ツイてる、ツイてると言っていれば、必ずツイて来る。いろんな人がよく言っていることだと思えます。松下幸之助さんの本を読んだのがきっかけなんです。ある研究所の副社長をしている江口さんという方が書いた記事でした。それがとても心に残りました。松下幸之助という人の人生はそんなに最初から決して恵まれた人ではありませんでした。ご存知の方も大勢いらっしゃると思いますが、お父さんが米相場に手を出し、大失敗して、すべて財産を失ってしまいました。ですからそこで学校にも行くことが出来ません。

9才で小学校を中退して、大阪の火鉢に出され、10人家族はそれぞれに離散して、親、兄、姉は次々と結核で亡くなっていきました。松下さんも20才の時、肺尖カタルを患い病床に臥します。誰もが運の強い人とは思へない、なんで運が悪いのかと思ってしまいます。ところが元気になって、松下さんは自分は本当に運が強かった、良かった。わしは学校に殆ど行ってなかったから、運が強かったのかも。もし、元気で大学にでも行っていたら、分からないことがあっても他人に尋ねたりすることもしなかった。行ってなかったから分からないことが当たり前で、何でも簡単に聞いたり、尋ねたりすることが出来た。

松下さんは奉公していた頃、雨風の晩、提灯の灯が消えて暗くなった時、雨風に耐えるものをと、たくさんの人々の知恵をもらい、教えて貰って出来たものが今の懐中電燈で、松下電気の始まり。たくさんの人々の知恵を教わって会社を建て、発展させることができた。これも体が弱かったから、運が強かった。だから仕事は思いきりするし、人に任せて人も育ち、どんどん優れた人材を育てることに成功した。もし、健康であったら、自分で何もかもやって、人を育てることも、会社を作ることも出来なかったであらう。

若い頃、大阪の築港でアルバイトをしていた時、その会社まで小さな蒸気船で通っていた。夏の夕方、縁を歩いていて海に落ちてしまいました。その時、一瞬運が悪いと思ったのですが、運が強かったから助かった。冬でなかったから運が強かった。もし冬であれば体の弱い私は死んでいたかも知れない。多少の泳ぎが出来てもそれは分からない。やはり運の強さであったからであらう。運、不運の分かれ道だったのか？

体内電池

本石 明子

「モシ、モシ、お母さん。元気？」「まあまあね」「まあまあならよかったです」「よかったですって、〇〇ちゃん、年寄り一人が暮らしているのよ。何時、何が起こるか解らないのだから、しっかり考えてくれなければ困るのよ」「その声！その語調。お母さんの体内電池はまだ大丈夫みたい。切れたらお終いだから、なるべく長持ちするよう頑張っ
てね。当方、変わりなし。気が向いたら出て来て下さい。では。忙しいから、またね。ボーナス送ります！」カチャツ。

言いたいことを言うだけ言って、味も余韻もないのだから、と呆れながら何となく笑いがこみ上げて来ました。体内電池とはうまい事言うなあ！使い古してボロボロの私の体内電池。取り替え充電、修理も出来ないけれどまだ80歳。平均寿命まであと4、5年の間に、孫の将来も見届けたいし、娘との遠距離喧嘩も楽しみたいし、せいぜい大切に長持ちをさせなければ、と力が少しづつ湧いて来るようでした。

現在せつせと注射に通いながら、優しい看護師さんの笑顔に力づけられ、ほんのちょっぴり楽しいお喋りをして、すっかり明るく心を癒されて帰りのバイクを走らせる所です。皆様も、ご自分の体内電池を大切に長持ち出来るよう頑張ってください。7月初旬。雨の夜、娘からの電話でした。

河童のいたずら

貴島高則

顔触られた釣り名人

昔、次右エ門さんという人がいました。次右エ門さんは集落の長老で、日清日露の大戦に出征した勇士で知られていました。また魚釣りの名人でもあり、よく鯉捕りに行きました。ある夜、次右エ門さんは一人で川内川の千ヶ淵という所に舟で渡って鯉捕りに出かけました。稲穂のえさを竹の先につけ、川の中にしかけ、鈴をつけます。魚がえさを食べると鈴が鳴り、網を打って鯉を捕るという方法でした。じっと鈴が鳴るのを待ちましたが、その晩はどうしたとか、ちっとも魚がくる様子がありません。そのうち昼の疲れが出て、うとうとと眠り込んでしまいました。それから何時間たったのか、何か顔に冷たい感じがして目が覚めました。顔を手でさわってみると、生臭いウナギのぬるぬるするようなものが、べったりとついていました。次右エ門さんは河童に顔をさわられたと思って恐ろしくなりました。昔から河童は鉄分を嫌うから、川に行くときは必ず「なた」か「かま」を持っていけと言われていたのを思い出しました。なたをしっかりとにぎり、じっとうず

くまり、夜が明けるのを待ちました。明るくなってきたので、次右工門さんは、足元を「なた」でたたきながら足を運んでようやくのこと、舟に乗って帰ってきたとのこと。昔から河童に関する言い伝えとして川に行く時は必ず鉄分の鉈か鎌を持ってゆけ。川に出るときは必ず咳払いをしてから出ろ。河童を驚かすと祟ると言いかされたものでした。

鶴

宮園辰夫

晴れ渡るやがて来る高空に鶴の声遠ければ哀しみ覚える

高空に鳴き来る鶴の声もうその時期かと寒き海の辺の道

さつま狂句

キンカン

な
倚いも身にやつかんでトコロテンの^す好んな^{かか}女房

息子ん所作に死んだ爺瓜二つ

合図（歌集 野火の音より）

山本フサ

陽のあたる方より熟るるいち枚の峽田は一個の果実のごとし

空の青うけてゆらぎぬ一枚の黄金の湖となりたる盆地

花百匁（歌集 千の蕾より）

奄美風砂

千の蕾いくつ裂いたか咲かせたか

絶望を噛みしだく時匂う水仙

編集後記

今月もみなさまから投稿いただきました。貴島さんは90歳を超えておられるし、宮園さん、本石さんも80歳です。なんとも驚くべきパワーですね。まだまだ40や50歳くらいでへばってはだめですなあ。とても勇気が湧いてきた今月号でした。

めっきり寒くなってまいりました。みなさまお風邪をお召しにならないように。次回は新年号でお会いいたしましょう。(編集者の元気が残っていたら年末も発行しますが…)